

令和4年9月2日

保護者様

三木市立吉川小学校
校長 長谷川 珠里

吉川小学校 新たなスタートを迎えて（18）

残暑の候、保護者の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校教育にご理解ご協力をいただき深く感謝いたします。

2学期が始まりました。夏休み中の8月28日（日）は全校登校日とし、保護者に送迎をお願いしました。愛校作業は諸般の事業を鑑み、延期としましたが、5・6年生が中心となり、予定していた2階部分の網戸の張替えを行い、きれいに整えてくれました。送迎等にご理解・ご協力いただきありがとうございました。

引き続き、東吉川小学校と吉川小学校の統合初年度ですので、学校での様子や保護者をお願いしたい事等をお伝えする方法として、本文書をお渡ししています。お読みいただく時間を作っていただき、ご確認をお願いします。

なお、本校のホームページにも同様のものをUPしていますので、過去の文書も確認いただけます。必要に応じてご利用ください。

☆学校HP（ホームページ）アドレス <http://www.miki.ed.jp/el/yokawa/>

☆検索窓に「吉川小学校」を入力して検索ください。

1 新型コロナウイルス感染症対策と学びの継続

9月1日（木）から2学期が始まりました。始業式の前に、転校生の紹介をしました。2年生に2人、3年生に1人の転校生がやってきました。夏季休業中に1家庭2名の児童（2年生、4年生）が、転居により転校しましたので、2学期は児童数194人でスタートします。

始業式では各学年の児童代表が、2学期がんばりたい事等を全校生に伝えてくれました。

「算数を頑張りたい。」「吉川小学校の初めての運動会を頑張りたい。」

「修学旅行で平和学習に取り組み、平和な生活が続けられるように、考



えていきたい。」等、それぞれの思いを発表してくれました。



私からは、昨日の神戸新聞の記事から、閉校した中吉川小学校が「釣りの学校へ」生まれ変わる準備が進められているお話をしました。

昨年度は全校生で中吉川小と上吉川小でドレスアップ作戦（清掃活動）を行いました。これからは閉校した学校を地元の企業などが有効に活用してくれる計画が進められている事も伝えました。

新聞記事の内容を伝える前に、「みなさんなら、体育館もプールも色々な部屋もある中吉川小学校を使って、どんな事をしたいですか。」と話し、考える時間を持ちました。

決められた事をしていくだけではなく、新しいアイデアを考えたり、色々な工夫をして問題や課題を解決したりする「生き抜く力」を育てていきたいと思いますというお話をしました。



なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、登校を控えている児童も自宅から始業式に参加できるように Teams でオンライン配信の準備をしました。2学期も感染症対策を講じながら学びを継続していきたいと思えます。

2 全校登校日の様子

8月25日（日）は全校登校日としました。スクールバスの運行がありませんので、登下校は保護者に送迎をお願いしました。時差来校等にご理解・ご協力をいただきありがとうございました。



登校時の様子です。児童の降車を教職員が目視で確認してから、車の移動をしていただきました。安全最優先の誘導にご協力をいただきありがとうございました。

もう少しスムーズに降車確認が行えるように、児童が降車した際にハザードランプでお知らせいただく等の改善案を検討していきたいと思えます。

1年生



2年1組



2年2組



3年生



4年生



5年1組



夏休みの生活について発表したり、提出物等の確認をしたりしました。加えて、宿題等の進捗状況を自覚し、残りの夏休みの過ごし方を考えました。

5年2組



6年生



9月にも水泳の授業があるので、楽しみです。

愛校作業は延期しましたので、網戸の張替えの一部を5・6年生に担ってもらいました。愛校作業の延期については昨日の「すぐーる」でお伝えしているとおおり、11月5日(土)の廃品回収後にPTA福祉部と本部役員等で行う予定だと報告を受けました。ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。



昨年閉校の中吉川小

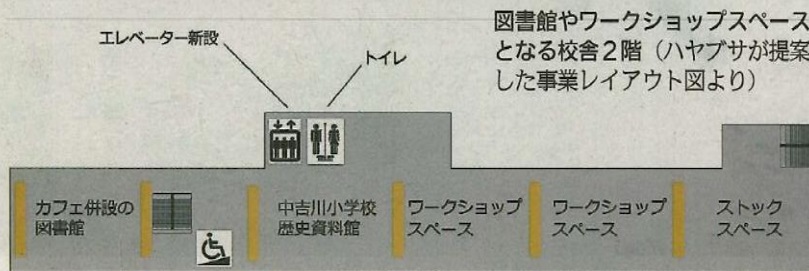
跡地に釣り堀やカフェ提案



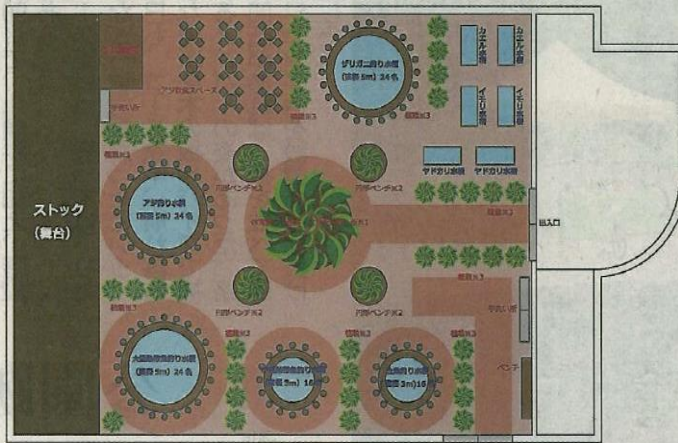
閉校後の活用計画が明らかになった旧中吉川小学校
校址 三木市吉川町大畑

昨年閉校した旧中吉川小学校（三木市吉川町大畑）の敷地に、釣り堀やカフェなどを設置する計画が提案された。体育館はアジや大型熱帯魚などの釣り体験スペースとし、校舎内に物販や飲食店が入る。同校の歴史を学べる資料館や図書館も設け、今後地域住民に施設の概要を説明する。

（長沢伸一）



図書館やワークショップスペースとなる校舎2階（ハヤブサが提案した事業レイアウト図より）



海水魚や淡水魚の釣り堀として利用される体育館（ハヤブサが提案した事業レイアウト図より）

地元のハヤブサ 体験学習型複合施設に

中吉川小は少子化に伴う学校再編で昨年3月末に閉校した。市は地域コミュニティ機能の維持などを目的に跡地の利活用案を公募。2社から応募があり、「人と自然をテーマにした体験学習型複合施設」を提案した釣り具メーカー「ハヤブサ」が採用された。計画はコンクリート造2階建ての本館と別館校舎、体育館などを用意。プールは屋外に設置する。校舎1階は、主に地元素材や産品を取り入れた物販や飲食店を予定。2階はカフェ併設の図書館や中吉川小の歴史資料館、屋内ワークショップスペースを備え、学びの場として活用する。エレベーターを新設し、体の不自由な人や高齢者に配慮する。

「ハヤブサは1959年に「田尻単人商店」として吉川町内で創業。70年に株式会社化し、ハヤブサに改称。さまざまな釣り具やアウトドアグッズの製造・販売を手がけている。同社マーケティング部商品開発課の市橋拓也課長補佐（42）は「コンセプトからぶれないよう熱意を持って取り組みたい。地元企業としてまちの活性化や地域貢献に関わりたい」と話している。

市は今後、同社と基本協定を締結する。施設の設置時期は未定。